4 2 第 号

平成17年2月1日発行

してよりよい人生を生きることができる

高野山真言宗いかせいのちょり

人間には知恵があるからすべてのものを活か

人間には迷いがあるから賢くなれる ^間には苦しみがあるから強くなれる

八間には欲があるから成長できる

方なのです。

にとお祈りいたしましょう。

それが本当の意味で『人が幸せになれる』生き

大師さまの御教えに触れた生き方ができますよう

今年のお正月は、ただ健康祈願だけでなく。

お

777777

さまの御教えを糧として生きることです。

れは言うまでもありません。

の中にあるのです。

私たち、

真言宗末徒はお大師 お大師さまの御教え ればなりません。その答えがどこにあるのか、そ きたら幸せになれるのか。その答えを見つけなけ

みおし

何のためにこの世に生まれてきたのか。どう生

楽院寺

けです。

然と生きているだけでは、命の浪費をしているだ 角、得がたき人身を得て生まれてきても、ただ漫 仏教の教えに触れることがなければ、いくら長生

きしても意味がないとおっしゃっています。折

く生きることが幸せな人生を送ることだと思って

私たちは、日々健康に気をつけて、一日でも長

きた人にもおよばない。」と言う意味です。

います。しかし、お釈迦さまはそんなことより、

〒369-1245 大里郡花園町荒川983

荒黜 寿 楽 院 高野山真言宗

髙 行 橋 敬

048-584-0302

すと「百歳まで長生きしても、仏教の教えを知る

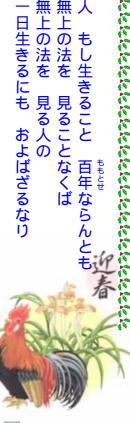
これは法句経の中の一節です。簡単に説明しま

ことがなかったなら、仏教の教えを知って一日生

無上の法を 無上の法を もし生きること 百年ならんとも 見る人の 見ることなくば

今年のお正月は

日生きるにも およばざるなり







本年、京都大仏師、松本明慶氏からいただいた年賀状を



平成16年の夏です。緑がいきいきと鮮やかでした

香を執れば自ら馥 衣を洗えば脚浄し みずか ふく

で空海の言葉シリーズ

ふれる川に入って衣を洗えば足まで清浄になる 香をもっているだけで、自分の体からよい香りがあ

必ずそれを手に塗って清めるのです。 侶の体からそのような香りがするというわけではなく、着て のひらに塗るお香をいつも身につけていて、お経を読むときは から、その香りが移るのです。そのうえ、僧侶は塗香という手 たんすにはいつも、伽羅、沈香、白檀などの木片を入れておく る衣が芳しい香りを発するのです。それは移り香であって、 と、なんともいえない芳しい香りがします。しかしこれは、 法事やお葬式の席に座っていて、正装した僧侶が傍を通 衣

のためになる善いことばかりをやっていれば、自然に足が洗え が、「泥沼に突っ込んだ足が抜けなくなった」とか、「足を洗 がやってくるのです。よく、広域暴力団の仲間に入った連 てきれいになります。 泥だらけの大根を泥水の中で洗っても いことではありません。そのまま泥水の中にいても、毎日、 いたいんだが.....」とかいうのを聞きます。それは少しも難 いに洗えるようなものです。 いつも善いことをしていると、ひとりでに自分に善いこと 泥だらけの大根ですらそうな ですから 中

えば、足ど 高い衣を洗 気 ころか魂 ま



然です。 なるのは で清らか 社空海のこ (日本文芸

そこ

で、川に入って衣を洗いますと、洗っている人の足まで清らか する衣でも、やはり長く着ていると汚れてしまいます。

さて、衣は仏さまの着るものですが、どんなに高貴な香り

になる、と弘法さんはいわれるのです。